

中国医療施設概況 2017年6月

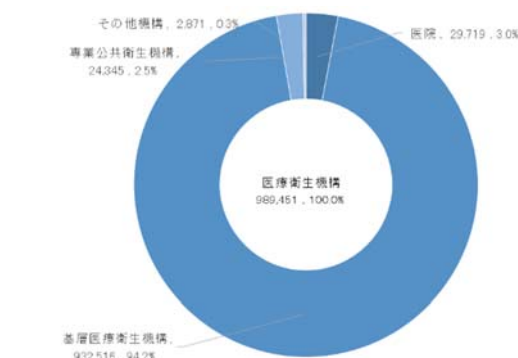
The Japan Research Institute (Shanghai) Solution Co., Ltd.
リサーチ・コンサルティング部門

1. 医療施設数

■医療関連施設全体は約98.9万施設、そのうち医院(病院)は約3万施設

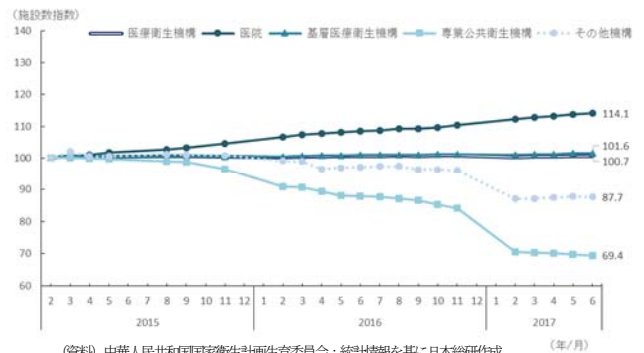
医療衛生機関(医療関連施設全体)は約98.9万施設。内訳は医院が約3万、基層医療衛生機構が約93.3万、専門公共衛生機構が約2.4万、その他機構が約0.3万。また、2015年2月の施設数を基準値とした場合、医院(114.1)は増加、基層医療衛生機構(101.6)と医療関連施設全体(100.7)は横ばい、専門公共衛生機構(69.4)とその他機構(87.7)は減少した。(図表1、図表2、図表3)

図表1 当月施設数



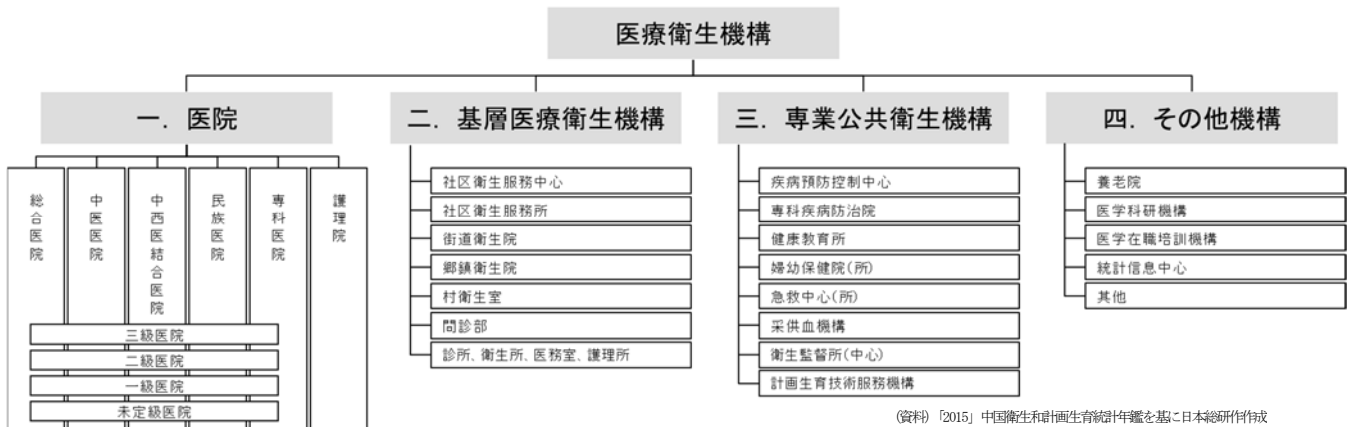
(資料) 中華人民共和国国家衛生計生育委員会：統計情報に基づき日本総研作成

図表2 当月施設数指数



(資料) 中華人民共和国国家衛生計生育委員会：統計情報に基づき日本総研作成
(注) 2015年2月=100

図表3 医療衛生機構内訳

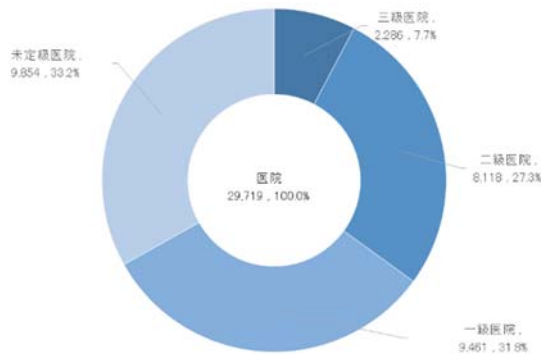


(資料) [2015] 中国衛生和計生育統計年鑑に基づき日本総研作成

■三級／二級／一級医院の施設数が増加

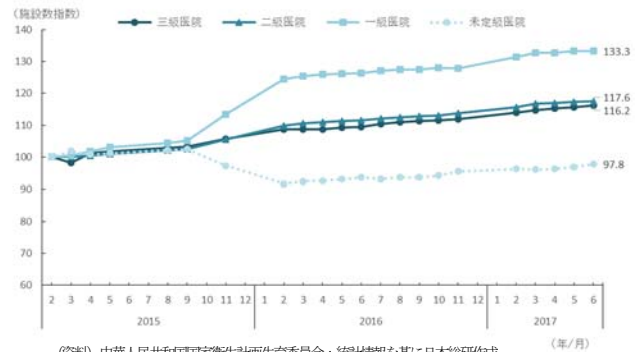
医院の等級別施設数は、三級医院2,286、二級医院8,118、一級医院9,461、未定級医院9,853。2015年2月と比較すると、三級医院(116.2)、二級医院(117.6)、一級医院(133.3)はそれぞれ増加しており、未定級医院(97.8)は横ばいであった。(図表4、図表5)

図表4 当月施設数(等級別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報を基に日本総研作成

図表5 当月施設数指数(等級別)

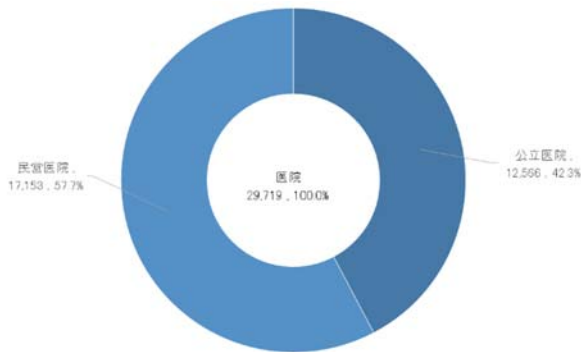


(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報を基に日本総研作成
(注) 2015年2月=100

■ 公立医院は全体の約4割、民営医院数は引き続き増加傾向

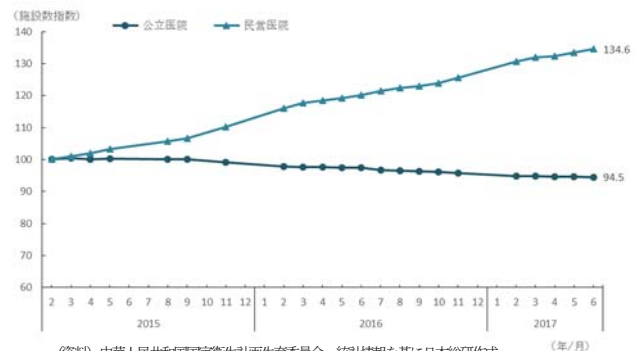
医院の官民別施設数は、公立医院 12,566、民営医院 17,153。2015年2月と比較すると、公立医院(94.5)、民営医院(134.6)であった。(図表6、図表7)

図表6 当月施設数(官民別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報を基に日本総研作成

図表7 当月施設数指数(官民別)

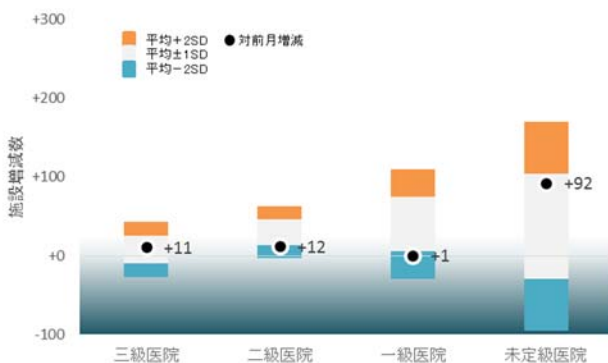


(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報を基に日本総研作成
(注) 2015年2月=100

■ 対前月施設増減数は過去同様、減少は公立病院のみ

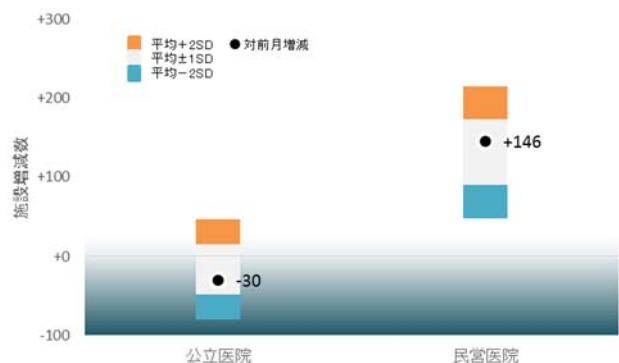
前月からの施設増減数は、等級別ならびに官民別でみてもほぼ平均±標準偏差の範囲(灰色)にあり、過去と同様の増減幅であった。また、減少したのは公立病院のみであった。(図表8、図表9)

図表8 対前月施設増減数(等級別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報を基に日本総研作成
(注) SD: 標準偏差 (2015年1月から前月までのデータで算出)

図表9 対前月施設増減数(官民別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報を基に日本総研作成
(注) SD: 標準偏差 (2015年1月から前月までのデータで算出)

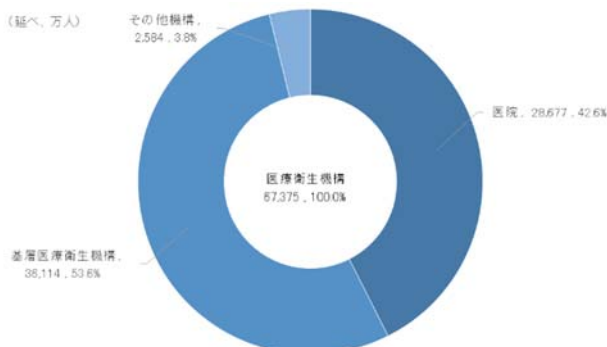
中国医療施設概況 2017年6月

2. 外来患者数

■ 当月全体では延べ約 6.7 億人、そのうち医院(病院)は延べ約 2.9 億人

医療衛生機関(医療関連施設全体)の外来患者数は延べ約 6.7 億人。内訳は医院が延べ約 2.9 億人、基層医療衛生機構が延べ約 3.6 億人、専門公共衛生機構はデータ公開されておらず、その他機構は延べ約 0.3 億人。外来患者数は年間を通して 2~3 月頃に増加した後横ばいになり、翌年の 2~3 月頃にさらに増加する傾向にある。2015 年 2 月の延べ外来患者数を基準値とした場合、医院(142.8)は約 1.4 倍、その他機構(155.9)は約 1.6 倍となり、医療関連施設全体(119.8)で増加。基層医療衛生機構(104.5)の外来患者数は横ばい。(図表 10、図表 11)

図表 10 当月外来患者数



(資料) 中華人民共和国国家衛生計生育委員会: 統計情報に基づき日本総研作成

図表 11 当月外来患者指数

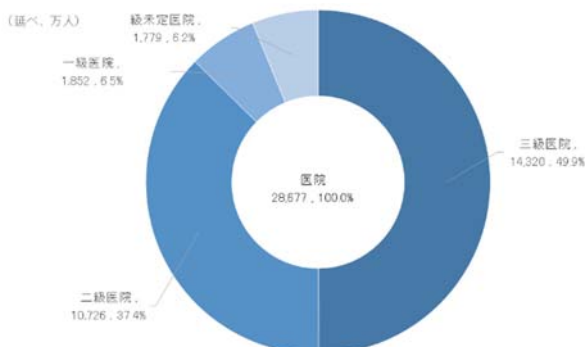


(資料) 中華人民共和国国家衛生計生育委員会: 統計情報に基づき日本総研作成
(注) 2015年2月=100

■ 等級別延べ外来患者数は、三級医院約 5 割、二級医院約 4 割

三級医院で延べ約 1.4 億人と医院全体の半数を占める。二級医院延べ約 1 億人、一級医院および未定級医院はともに延べ約 0.2 億人であった。三級医院施設数は医院全体の 7.7% (図表 4) だが、延べ外来患者数は全体の半数近くあり、施設数に比べ述べ外来患者数が多い。2015 年 2 月と比較すると、三級医院(156.0)、二級医院(131.5)、一級医院 (156.4)、未定級医院構(113.9)といずれも外来患者数は増加した。(図表 12、図表 13)

図表 12 当月外来患者数(等級別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計生育委員会: 統計情報に基づき日本総研作成

図表 13 当月外来患者指数(等級別)

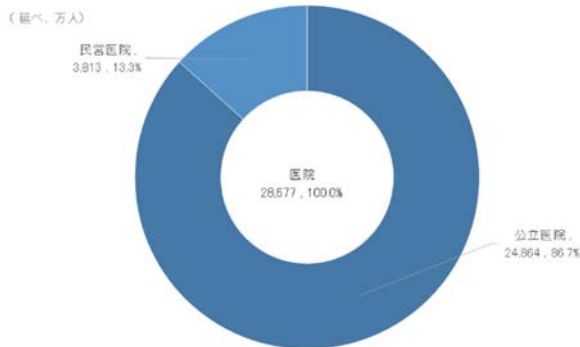


(資料) 中華人民共和国国家衛生計生育委員会: 統計情報に基づき日本総研作成
(注) 2015年2月=100

■ 公立と民営医院の延べ外来患者数割合は、9:1

医院の官民別では、公立医院の外来患者数が延べ約 2.5 億人で、医院全体の延べ外来患者数の 86.7%を占める。一方で、民営医院の外来患者数は延べ約 0.4 億人であった。2015 年 2 月と比較すると、公立医院(138.9)、民営医院(174.3)であった。(図表 14、図表 15)

図表 14 当月外来患者数(官民別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会：統計情報に基づき日本総研作成

図表 15 当月外来患者指数(官民別)

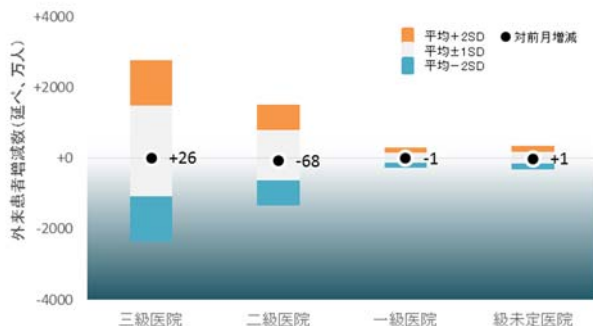


(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会：統計情報に基づき日本総研作成
(注) 2015年2月=100

■ 対前月外来患者数の増減幅は少ない

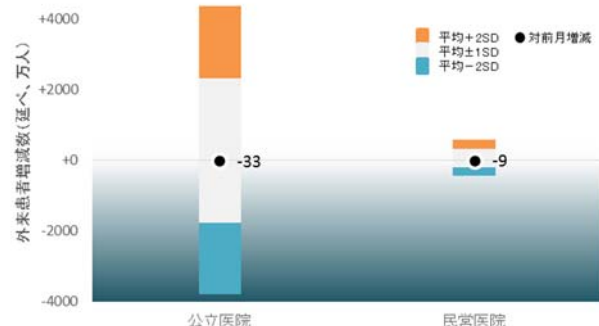
前月からの延べ外来患者増減数は、等級別ならびに官民別においても、平均±標準偏差の範囲(灰色)内にあり、前月とほぼ同じ延べ外来患者増減数であった。(図表 16、図表 17)

図表 16 対前月外来患者増減数(等級別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会：統計情報に基づき日本総研作成
(注) SD:標準偏差 (2015年1月から前月までのデータで算出)

図表 17 対前月外来患者増減数(官民別)



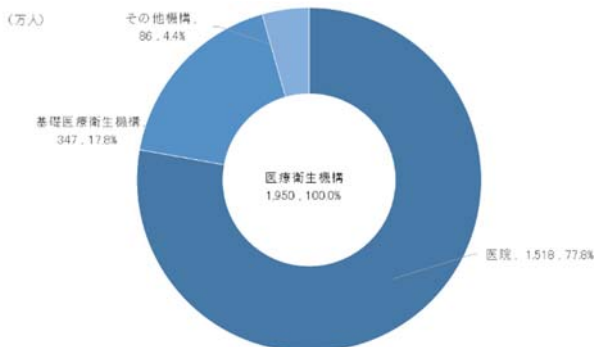
(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会：統計情報に基づき日本総研作成
(注) SD:標準偏差 (2015年1月から前月までのデータで算出)

3. 退院患者数

■ 当月全体では約 2,000 万人、そのうち医院(病院)の退院患者数は約 1,500 万人

医療衛生機関(医療関連施設全体)の退院患者数は 1,950 万人。内訳は医院が 1,518 万人、基層医療衛生機構が 347 万人、専業公共衛生機構はデータ公開されておらず、その他機構は 86 万人。2015 年 2 月の退院患者数を基準値とした場合、医院(135.7)は約 1.4 倍、医療関連施設全体(132.9)は約 1.3 倍、その他機構(126.8)は約 1.3 倍、基層医療衛生機構(123.2)は約 1.2 倍とそれぞれ増加。(図表 18、図表 19)

図表 18 当月退院患者数



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報に基づき日本総研作成

図表 19 当月退院患者指数

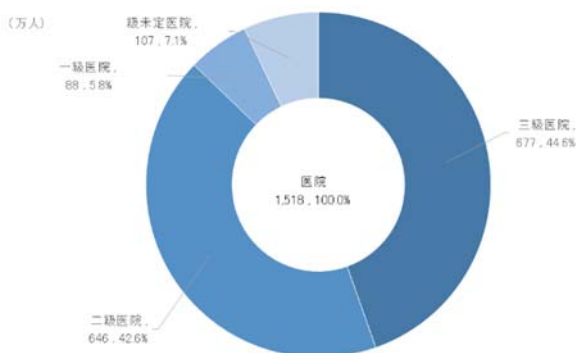


(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報に基づき日本総研作成
(注) 2015年2月=100

■ 等級別退院患者数は、三級医院および二級医院で約 4 割ずつ

三級医院で 677 万人、二級病院で 646 万人でありほぼ同程度。2015 年 2 月と比較すると、三級医院(152.8)、二級医院(121.0)、一級医院 (155.4)、未定級医院構(126.0)といずれも増加した。(図表 20、図表 21)

図表 20 当月退院患者数(等級別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報に基づき日本総研作成

図表 21 当月退院患者指数(等級別)

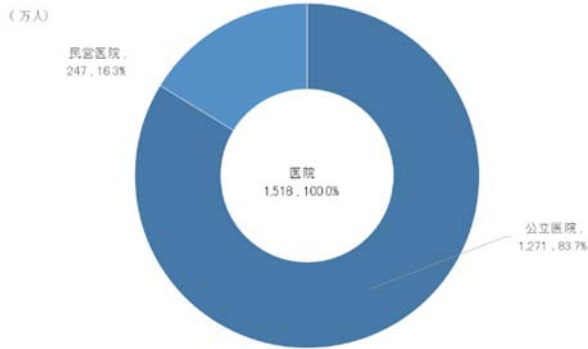


(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会: 統計情報に基づき日本総研作成
(注) 2015年2月=100

■ 公立と民営医院の退院患者数の割合は、8:2

医院の官民別では、公立医院の退院患者数が1,271万人で、民営医院は247万人であった。また、2015年2月と比較すると、公立医院(129.5)、民営医院(179.5)であった。(図表22、図表23)

図表22 当月退院患者数(官民別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会:統計情報を基に日本総研作成

図表23 当月退院患者指数(官民別)

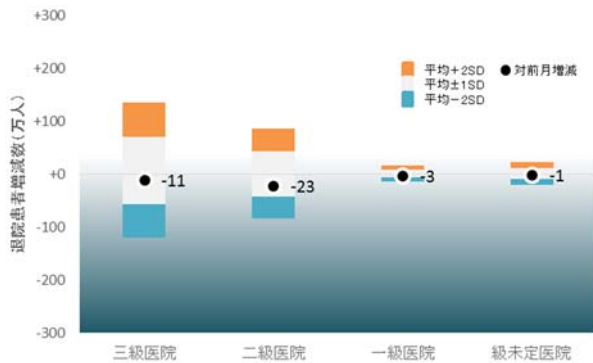


(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会:統計情報を基に日本総研作成
(注) 2015年2月=100

■ 対前月退院患者数の増減幅は少ない

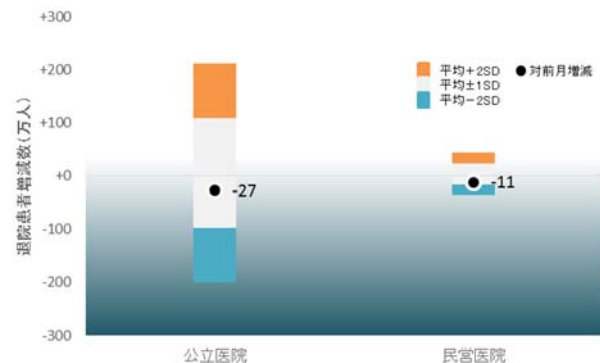
前月からの退院患者増減数は、等級別ならびに官民別においても、平均±標準偏差の範囲(灰色)内にあり、前月とほぼ同じ退院患者増減数であった。(図表24、図表25)

図表24 対前月退院患者増減数(等級別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会:統計情報を基に日本総研作成
(注) SD:標準偏差(2015年1月から前月までのデータで算出)

図表25 対前月退院患者増減数(官民別)



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会:統計情報を基に日本総研作成
(注) SD:標準偏差(2015年1月から前月までのデータで算出)

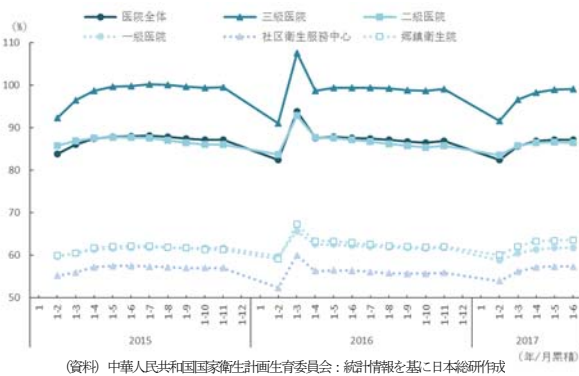
4. 病床利用率、平均在院日数

■ 医院全体で病床利用率 87.2%、平均在院日数 9.1 日

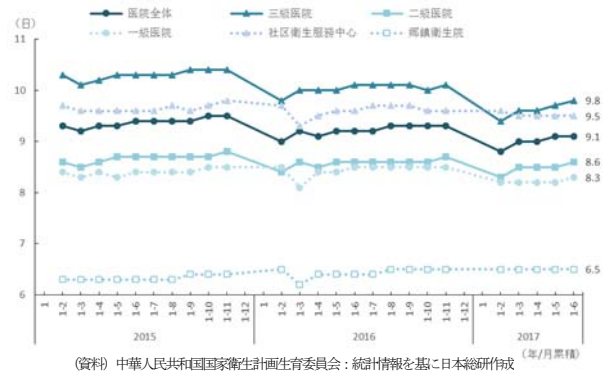
医院全体の病床利用率は 87.2% であり、その中でも三級病院は 99.1% であった。日本の医院全体の病床利用率 (2015 年) は 80.1%^{*1} であり、単純比較は難しいものの、中国の病床利用率は日本と比べ高い傾向にある。また、平均在院日数は医院全体で 9.1 日であった。日本の医院全体の平均在院日数 (2015 年) は 29.1 日^{*1} であり、日本に比べ中国の平均在院日数は短い傾向にある。(図表 26、図表 27)

*1) 平成 27 年 (2015) 医療施設 (動態) 調査・病院報告の概況 厚生労働省

図表 26 病床利用率



図表 27 平均在院日数

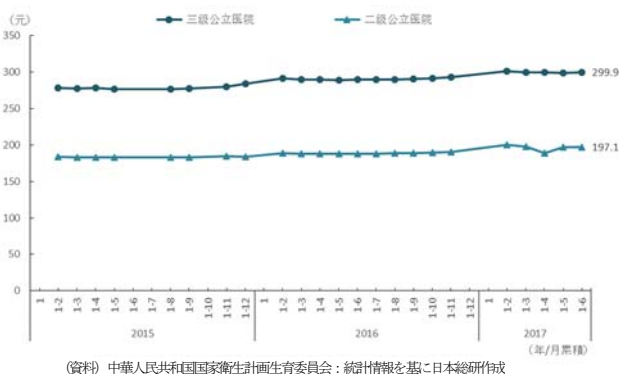


5. 外来平均診療費、入院平均診療費

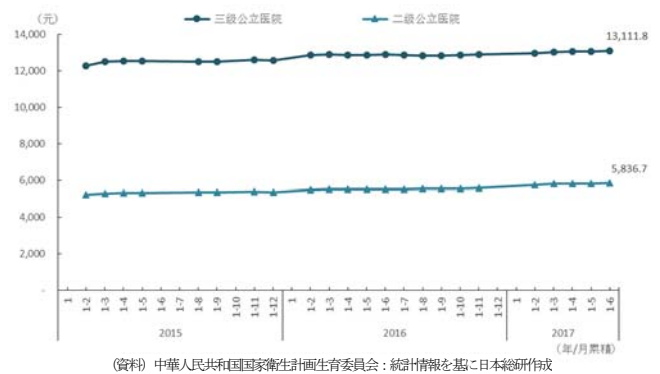
■ 外来平均診療費および入院平均診療費のトレンドに大きな変化はない

三級公立医院の外来平均診療費は 299.9 元、入院平均診療費は 13,111.8 元。二級公立医院の外来平均診療費は 197.1 元、入院平均診療費は 5,836.7 元。(図表 28、図表 29)

図表 28 外来平均診療費



図表 29 入院平均診療費



本資料は情報提供を目的に作成されたものであり、取引の誘引を意図したものではない。また、2017 年 8 月 25 日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものであるが、内容に誤りがないことを保証するものではなく、情報の正確性・完全性・網羅性・商用性については、一切の保証をするものではない。